

2008 第1回東大本番レベル模試 優秀答案

第4問（東京都M君の答案）

1880年代は国内の法的整備が十分ではなく、列強は外国人判事の任用を求めてきたため、日本政府内外からの反発が強かった。しかし憲法や議会・六法などの法的整備が1890年代に完了したため、列強が条約改正交渉における日本に対する要求を緩めた。更に、日清戦争のため議会議も対外硬の主張を押さえたため。

R

3+2+1+1+1+1+1+3+R2=14点

コメント

6月の段階で、地歴科目について受験生に高い学力を求めるのは酷というものだろう。掲載した答案例も決して完璧なわけではない。ただし、それでも大きな可能性を感じさせるものになっている。

第1の可能性は日本史の学力にかかわっていて、M君は条約改正過程における「外国人判事任用問題」の本質を正しく理解している。第2は、採点基準にも記したが、問題の限定「1880年代に交渉が失敗した理由“にも”ふれながら」にピクッと反応して、恐る恐るではあるものの（ついでにいえば内容的には不完全ではあるものの）、その他の要因に言及してみせた点である。

学力の飛躍は“チャレンジングな精神”に支えられていることを、あらためて強調しておきたい。